

2021年度自己点検自己評価(2021年4月1日～2022年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3	教育理念・目的・育成人材像は、教育指導要領及び学生便覧にて明文化・文章化されている。 職業人教育の基本である「今日も笑顔で挨拶を」の標語を全ての教室に掲示して、学生、職員が日々実践できるようにしている。	学校法人滋慶学園は「職業人教育を通して社会に貢献していく」ことをミッション（使命）にしている。建学の理念①実学教育 ②人間教育 ③国際教育を実践し、 4つの信頼 (①学生・保護者からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③業界からの信頼 ④地域からの信頼) を得られるよう学校運営をしている。	3	・コミュニケーション能力と共に人間力も高め、現場で必要とされる人材育成をお願いしたい。 ・学校のガバナンスを意識して運営され、世の中のニーズに対応した学科やコースを作るなど、専門学校(スポーツ系)のブランディングに成功していると思う。 ・教育課程編成委員からの意見を具体的にどのような内容を反映させているのか。
	1-1-2 育成人材像は業界等の人材ニーズ像に適合しているか。育成に関連業界の協力を得ているか。	3	幅広いスポーツ職種の就業に対応できる課程（学科）を設置し、各課程別に養成目的、教育目標を掲げ、学年暦、教科課程を定めている。	各学科で企業や団体との教育提携を進めており各過程ごとに教育課程編成委員からの意見をカリキュラムに反映している。また、業界の動向に応じてIT分野にも長けたスポーツ人材の育成に取り組んでいる。		
	1-1-3,4 理念の達成、業界ニーズに適合する将来構想を抱いたうえでの教育活動に取り組んでいるか。	3	学内の施設・設備を活用し、学生と教員が企業と連携して地域や競技者と連携した教育活動を運営している。この活動内容を業界、高等学校に広報し、共同事業の活性化や連携を強化に繋げている。	建学の理念から成り立つ教育目標に基づいて、東京スポーツ・レクリエーション専門学校は、多様化するスポーツ業界、レクリエーション業界、医療業界で活躍する専門家に必要な知識・技術を身に付けることにより、生きがい、コミュニケーションの知識・技術で人々が健康で生きがいに満ちた社会の実現を目指している。		
2 学校運営	2-2-1 運営方針は定められ、教職員に周知・浸透されているか	3	事業計画の中で運営方針を明記し、定量目標・定性目標を達成するために、実行方針、実行計画を明記し、教職員研修で周知徹底している。	法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を作成している。事業計画を立てることと、運営方針を定めることは、常に同時に考え、実践している。明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。	3	・コロナ対策としてリモートが多く学習の場面も工夫が必要になるなか、学校と講師の先生方が協力してサポートしている点が評価できる。 ・2020年度からコロナ禍となり2021年度も非接触が求められたが具体的な工夫はどんなことか。
	2-3-1 事業計画は理念等を達成できるように定められているか	3	学校の組織目的と中期的学校構想のもと、事業計画を作成し、毎年の教職員研修で方針・計画を発表している。 また、事業計画を教職員が自立的に計画・決定し全員で共有している。その上で、職場運営が実行されていく。	事業計画の構成は以下の通りである。 ①組織目的②運営方針③実行方針④定量目標⑤定性目標⑥実行計画⑦組織図(単年度)⑧職務分掌⑨部署ごとの計画及びスケジュール⑩附帯事業計画⑪職員の業績評価システム⑫意思決定システム⑬収支予算書		
	2-4-1,2 理事会は適切に開催されているか。また、運営組織や意思決定機能は体系化され、効率的なものになっているか	3	理事会は年4回実施されており、各理事会毎に組織全体に議案の確認をしている。また、議事録は関係部署に公開されている。 運営組織は、実行計画の最適化の観点から見直されており、その全体像は、事業計画書の組織図に示されている。	運営組織は、実行計画の最適化の観点から見直されている。その全体像は、事業計画書の組織図に示されており、その中心は事務局長となっている。運営のチェックは、各会議で行い、計画遂行の確認をする。問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを構築している。		
	2-5-1 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3	採用計画、人材育成計画は事業計画で定められている。 目標管理制度を基本とし、これと対応して成果主義を取り入れた賃金制度を設けている。賃金の決定は目標管理制度を基準としている。	採用計画と人材育成のための研修は、システムとして確立され、有効に機能している。採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。採用は採用基準の基、厳正に実施している。目標管理制度に基づき、成果に応じた人事や賃金決定が行われている。目標は個人のスキルにあった設定となっているかを学校責任者および運営本部長の決済を要する仕組みとなっている。		
	2-6-1 意思決定システムは確立されており明確になっているか。	3	意思決定のシステムは事業計画書に明示している。また、職務分掌、各会議・研修の位置づけも明示し、事業計画の研修会では規則や規定等を確認している。また、会議で承認された決定事項を確実に実行していく為、締切りや担当責任者に確認をしながら業務を進めている。	事業計画書には職務分掌、各会議・研修の位置づけも明示し、事業計画の研修会では規則や規定等を確認している。また、会議で承認された決定事項を確実に実行していく為、締切りや担当責任者に確認をしながら業務を進めている。		
	2-7-1 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	専門学校基幹業務システム（IBM社製 i 5（アイファイブ）上に構築）によりデータベース管理をしている。 データベースは、①学籍簿 ②時間割 ③成績・出席 ④学費 ⑤入学希望者及び入学者情報 ⑥各種証明書 ⑦求人企業 ⑧就職実績 ⑨卒業生 ⑩学校会計 ⑪人事・給与 ⑫ファームバンク ⑬研修旅行 ⑭寮管理 ⑮健康管理 等により構築されており、WEBシステムとして、 ・教務 ・広報 ・就職 ・会計 ・勤怠 が稼動している。	特に、学生の教育・就職・学費入金等、学生に関わる情報処理についてはすべて一元化された運営を行っており、学生情報にブレがないようにシステム構築をしている。そのことが、退学防止、就職支援へとつながっている。		

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
3 教育活動	3-9-1.2 教育の目標・目的に沿った教育課程を編成し外部の意見も反映しているか。	3	教育課程の編成時には、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会での意見や評価、卒業生が勤める業界の方のヒヤリング、講師などからヒヤリングを実施て、業界動向などの分析シートを作成してから、カリキュラム編成作業に入る形になっている。また在校生より、毎学期、授業アンケートを実施し、この結果についても教育課程に反映している。	各学科の教育目標は、常に業界のニーズを反映させるため業界調査、学科調査、競合調査を毎年秋季に行い、そこで業界ニーズに確実に応えられる教育目標、育成人材像を設定している。	3	・コロナ禍で現場に出ることも少なくなっている中で、学生達のコミュニケーションスキルも高めていく教育も必要であると感じている。資格対策を担当する講師にも合格率を意識した授業展開を求めていることは非常に良い取り組みだと思う。合格させるためのスキルを持ち合わせた講師も絞られてしまうが、合格率を上げるためには仕方ないことなので、講師の変更も積極的にこなってほしい。 ・資格を取ることが目的にならないよう、その資格から先に見える仕事をイメージさせ勉強のモチベーションにして欲しいと思う。 ・資格実績にバラつきがあり、特に健康運動実践指導者が低合格率となっている。具体的な改善策はあるのか。総合型フィットネスでは健康運動実践指導者は重宝される。
	3-9-3 キャリア教育を行なうために教育内容等の工夫をしているか。	3	学内ゼミ・スポーツコラボ実習等、お客様と接する機会やプロの現場に触れる機会を重視している、また、振り返りを授業内で実施することで学生のキャリア意識を高める教育を1年次から行っている。また、すべての授業のシラバスの作成を学科長や教務部長が関わり確認していく。 また、卒業してから1年後に卒業生に連絡し仕事の継続状況を確認するとともに奨学金利用者には返還の状況も確認している。	キャリア教育ロードマップを元に学科ごとの教育フローを作成し、学科それぞれの特色を踏まえた業界連携を中心としたキャリア教育を展開している。また、教職員のキャリア教育に対する知識・マインド・授業技法の習得を目指して、学校法人として研修を行っている。		
	3-9-4 授業評価を実施し、授業改善に活用しているか。	3	前期・後期の各1回、学生に授業アンケートを実施している。授業アンケート結果は、それ以降の授業の改善につなけるとともに、講師にも授業フィードバックを行っている。	授業アンケートを実施し、教務部長もしくは学科長が講師と面談を行い、授業の問題点に対する課題提案をし、授業改善につなげている。また、定期開催される講師会議や全体会議を通して、成功事例の共有化も図っている。また、定期試験の平均点が低い授業は問題を見極めるために必要に応じて講師と面談を実施している。動きの速い業界となるので、常に講師人材の発掘にアンテナを張っており、最先端の教育に意識を向けている。		
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確にしているか。	3	成績評価及び単位認定基準は明確に定め学生便覧・教育指導要領に記載。またオリエンテーション時学生にも伝えている。評価は6段階で行いGPAで成績分布も確認をしている。今後は実習授業を中心にルーブリック評価を進めている。	成績評価と単位認定の基準は、学則施行細則はもとより『教育指導要領』及び『学生便覧』に明記し、職員や講師、学生にも周知徹底している。またそれに基づき学生指導・支援をおこなっている。教員、講師に向けて評価研修を行い公正な評価に努めている。		
	3-11-1.2 目標とする資格は教育課程上、計画に位置付け、取得の指導体制はあるか。	2	取得目標資格に向けての内容や資格対策授業については入学時に学生便覧にて詳細を説明して、資格取得の動機付け教育を行っている。資格合格プログラムは毎年見直しを実施しているが、健康実践運動指導者・JATI・NSCA-CPTに関しては平均の合格率を下回っている。不合格者、卒後指導体制について、ひとり一人の卒業生の状況に合わせた資格合格プログラムを策定している。	資格合格に向けての資格対策授業をしている。 学園全体で資格試験対策センターを設置しており、資格対策研修会、勉強会に教員が参加して、資格合格に向けての指導方法、指導体制について共有して常に改善、向上を図っている。資格対策を担当する講師にも合格率を意識した授業展開を求めている。成果の出ない授業は講師を含めて内容の見直しを進めている。		
	3-12-1.2.3 資格・要件を備えた教員を確保し、教員の資質向上の取組みを行なっているか。	3	学生指導要領に取得可能資格一覧を明示し学生に周知徹底するとともに、受験対策講座を担当する講師が職業観とともに試験対策授業を実施している。学校と学園それぞれで教育の質向上を図るための研修が実施をしている。専任教員には専門分野における研修参加を義務付けている。	教員の資質向上を目的とした研修は校内や外部団体の研修会など数多く実施・参加している。担任研修、カウンセリング研修、新入職研修など、経験や部署に対応したプログラムになっている。事業計画作成時に研修対象者を選定し、職員の資質向上も計画的に行っている。 FD(フィードバック)研修では、新任教員に教授法、クラス運営開発をテーマとした資質向上を図っている。ベテラン教員にはカリキュラムの構築や教務組織運営等のそれぞれのステージにあった研修を行っている。		
4 教育成果	4-13-1 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3	学科、専攻毎に月別内定目標を設定して、定点観察を行い必要に応じて対策を講じている。 学生就職活動状況表を活用し活動状況を学内にて共有把握している。 専門就職者数を毎月末に集計し、就職者数の把握及び対策を立て学生指導をしている。 企業に働きかけ学内説明会の実施や、就職希望企業での企業実習(インター)を実施している。 内定届と内定通知を提出させ、卒業時には卒後進路報告書を提出させ正確な実態を把握し数値に過去全データを保管している。	キャリアセンター…就職に関する相談室を「キャリアセンター」という名称で設置している。キャリアセンターの役割は、職業安定法第33条の2項による「学校等の行う無料職業紹介事業」に基づき、厚生労働大臣にその旨を届け出た上で行っている支援である。現在行っているキャリアセンターの主な業務内容は、学生の就職相談、進路調査、企業からの求人受付と公開・管理、企業の開拓と求人依頼、企業セミナーや各種講座など就職支また、同窓生(卒業生)のキャリアアップ支援卒業後の同窓生には就職した後にさらなるキャリアアップを考え、生涯就職支援を実施している。 昨年に続きコロナ禍により求人数が減少したが、オンラインによる個人面談、保護者説明会を実施。	3	・JSPOアスレティックトレーナー資格を取得するために、滋慶学園グループ全体で試験対策を行い積極的に連携を取ってほしい。 ・TSRはアスレティックトレーナーと言われるほどのブランディングがあり、業界からも評価を得ていることと、それを長年続けられていることが評価に値する。 ・アスレティックトレーナー以外の資格取得率向上の施策を教えて欲しい。
	4-14-1 資格取得率の向上が図られているか	3	学生への具体的な取り組みは、過去問題の解答・解説を作成し週に数回の補習を実施、その後模擬試験を行い、点数の伸びない学生には少人数制の補講を行うなど、全員合格に向けて指導体制の強化を実施しているが、今後も更なる工夫が必要である。 学園グループ校の同一学科と構成している教育部会では、テキストの作成やe-ラーニングへの作問、統一模擬試験作成など学園のスケールメリットを活かし、資格合格率向上への取り組みを継続している。	全国にある滋慶学園グループのスポーツ系9校の学校による教育部会などでアスレティックトレーナー試験対策については連携を下記の通りとっている。 ・J-WEBというネット上での試験対策を実施 ・年に2回教育部会を実施しグループ9校で情報共有・問題の分析・作成を行っている。 また、その成果がでている。		

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
	4-15-1 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	卒業生については学科職員や卒業生同士の人の繋がりにより把握が出来ている。特にトレーナー系は活動を通じての繋がりが強く、実習指導を依頼することも多いため活躍の状況報告が入ってくる。在校生は担任による指導、面談の中で学校内外での活動に関し、支援体制を取っている。	資格特別講座を、各資格で取り入れており再チャレンジする卒業生も参加可能となってる。 アスレティックトレーナー資格については、卒業生も含めて資格取得のための特別講座を行なっている。 卒業生の活躍は同窓会会報にて紹介と情報収取を行っている。		

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
5 学 生 支 援	5-17-1 退学率低減の為の取組みを行なっているか。	2	毎年、各科総括をおこない年度当初に学校全体の教育方針を受け学科方針を作成し、年間スケジュールを作成している 部署会議などでは、クラスの状況や課題のある学生に対するサポートの検討を行うなど、チームで学生を支援する体制を重視した。退学率は5.3%となり、2020年度の4.6%を上回る結果となった。新規開講したパーソナルトレーナー科の多様な学生層に対応できなかったことと、アスレティックトレーナー養成科のグループ校とのダブルスクール生の学生の学習面・モチベーション面での退学が大きく影響した。	学生の問題は多様化・複合化しており、学校全体の支援体制が必須となる。問題を早期発見をすることと、問題の内容に対応できるサポート体制を確立することが退学率の低減に繋がると考える。学生は担任や講師だけでなく学費担当、就職担当とも関りがある為、部署を超えた学生支援を行っている。 学習意欲喪失による退学を減少させることが課題である。定期的な学生面談だけではなく、担任以外に関わりのある教職員も気になった時点ですぐに面談を行い問題の早期発見に努めている。高等教育の修学支援新制度により経済的理由の退学はほぼ無くなった。	3	・担任が学生のサポートとして講師の先生方の間に入り、目標に向かわせる体制が評価できる。 ・留学生にも親身になり、就職先をサポートしている姿勢がとても良いと思う。 ・部活動への参加率を高めることが人材育成に繋がると考える。
	5-18-1,2 留学生支援も含め、学生相談に関する体制を整備しているか。	3	留学生に関しては、学生サービスセンターが法人内に設置している留学生支援センターと共同し、在留資格の取得・更新等の各種入国管理局に対する手続きや生活、言葉の不安に対応できる体制を取っている。また、日本人学生も含めて、①精神面②学費③健康面などの相談を受入れる体制を整備している。	留学生に関しては文化の違いもあり、日本人学生と比較すると抱える問題も多岐に亘っている。学生面談は通訳を入れて実施することもあり、留学生の対応は細やかに行っている。		
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3	入学前から学費相談を実施している。必要に応じて日本学生支援機構予約採用候補者を対象とした学費分納制度や、教育ローン等の案内を行っている。担任も制度を理解しており、経済的側面に变化のあった学生は速やかに学生サービスセンターへと繋ぎ状況に応じた支援を実施していいる。	【TSR学費分納制度】この制度は、日本学生支援機構の予約採用を利用し、奨学金の採用決定月額で授業料の分納支払いをサポートするシステムである。毎月本人の指定口座へ振り込まれる日本学生支援機構奨学金を授業料に充当している。 これ以外に、既卒者向けの奨学金を使用しない分納制度もある。 高等教育の修学支援新制度により、以前と比較して学費納入困難に陥る学生は減少したが、奨学金の管理がずさんな家庭は一定数おり保護者を含めて相談を実施している。		
	5-19-2, 3 学生の健康管理や、学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか。	3	学園が運営する「慶生会クリニック」「滋慶トータルサポートセンター」が学生の体と心の健康管理をしている。毎年実施する健康診断で再検査になった際に慶生会クリニックにて再検査を受けることができる。 また、学園本部では学生寮の運営もしており、寮生については寮長と担任が情報の共有をしている。	慶生会クリニックの診療科目は内科・歯科であり、学生は診察費（治療費）が無料となっている。インフルエンザやB型肝炎等のワクチンの優先接種が可能である。寮本部と担任で気になる学生の学校内外のサポートを行う場合がある。また、東京都からの通知文書などによる新型コロナウィルス関連の情報発信も積極的に行っている。		
	5-19-4 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	サークル・部活動は規定を設け、学業に支障のない範囲で実施している。 2021年度は、サッカー・バスケットボールなど過去の大会で優秀な成績を残した部活動の大会が新型コロナウィルス感染症の影響で中止となり、練習の実施のみとなった。	女子バスケット部と男子サッカー部の活躍は学生募集の際にも、目立つコンテンツとなっている。部活動やサークルは学生の希望に応じて学校が支援をして大会等の出場サポートをしている。今年度は学生の希望によりダンス部を設立した。このダンス部にグループ校の学生も加入しており活気ある活動をしている。		
	5-20-1 保護者と適切に連携しているか。	3	定期試験結果の発送や出席率について問題のある学生の保護者に対しては、即座に連絡し連携をとれるようにしている。 緊急連絡先を学生より提出してもらい連絡がとれるようにしている。 学生の問題の兆しが出たときから連絡をして、良いことも含めてこまめに連絡をするようにする。 成績および出席不良者は保護者面談にて、状況の報告をしている。	出席率の問題は、単位未修得に繋がるため、保護者との連携が重要である。 高校新卒の未熟な学生も多く、出席、成績、就職、奨学金の手続き等、状況に応じて保護者の支援を仰ぐため連携を大切にしている。		
	5-21-1 卒業生への支援体制はあるか	3	卒後の転職・就職支援を実施している。資格対策講座を中心に、卒業後のキャリアアップ支援を行っている。 トレーナー人材バンクというシステムを構築し、希望する卒業生にはトレーナー派遣の情報提供を行っている。	同窓会組織を再構築し、卒業後に希望する支援体制について聞き取りを行い、体制を整えている。現在、人材バンクはトレーナーに限定されているが他の職種で経験者向けの求人があった場合には卒業生の状況に応じて学校から情報を発信している。		
	5-21-3 社会人経験者のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3	社会人の再進学に関しては、状況を想定して学則で制度を明確にしている。 学び直しに対応できるよう、委託訓練、教育訓練給付金の認定を受けている。	社会人が現職を継続しながら学べる環境として、土日開講の学科を設置しており教育訓練給付金の認定を受けている。また、フリーターの正規雇用を目的としたハローワークの委託訓練の認定も受け、高校新卒だけでなく幅広い年齢層に対しての教育環境整備に取り組んでいる。		

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
6 教育環境	6-22-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	定期的に、建物点検を行い法令や設置基準を遵守できているかチェックを行っている。 施設・設備の貸出しは規約を設けた上で、積極的に行っており、多くの卒業生や講師が利用している。 改装については、大きな費用が必要になる為、５カ年で計画を立て、費用の積立も行っている。	スペシャリストとしての技術を磨くための最新施設や機器を完備し、プロの現場と同じ器具、同じ環境で実習授業を受けることで、学生の学習意欲を喚起し、専門就職、資格合格率向上につなげる。授業以外でも、個別の課題に取り組む環境を用意している。スポーツ業界は急速に変化するため、先を見た環境の整備が必要である。	3	・定期的に学校内をリノベーションし、学生の使いやすさや学習環境を整えている。 ・防災に対する準備はあるが、実際に授業中に起きた時の安全確保と対応を先生方に定期的なインフォメーションをし続けて欲しいと思う。 ・防災、水害に対する垂直避難の内容を知りたい。 ・トレーニングルームの機器は足りているのか。整備計画を教えてください。
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	学外実習に向けての教育は実習前後教育期間を設け実施している。また、一定以上の学生の学習到達度となるように、学外実習先に評価基準を明示している。就職を見据えたインターンシップでは学生が希望する就職先に近い現場を確保すべく、業界・講師との連携を強化している。	学外実習・インターンシップ・海外研修を行うことで、学園の理念である『実学教育』『人間教育』『国際教育』の全てと関わることになり、その教育効果は大きいと考える。今年度もコロナの影響で残念ながら現地での研修を実施することができなかった為、オンラインを通じての研修に切り替えたが職員や卒業生も視聴することができ満足度の高いものになった。		
	6-24-1.2 防災に対する体制と学内における安全管理体制が整備されているか。	3	防災に対しては、マニュアルの整備、スタッフの役割分担、学生への情報提供など体制の整備はされている。救急時における機器・備品も準備されている（全学生人数分の３日間分の食料、簡易トイレ、備蓄水、発電機、AEDなど）。 地震、津波、火災の被害を想定した訓練を実施している。 緊急時に学生・職員の安否確認が取れるようメール登録を徹底している。	学園のスケールメリットを生かし、関東で震災が起きた場合には関西に災害対策本部を設置する等、学校単位ではなく学園全体での防災体制が確立されている。学園全体では救急コーディネーター研修を行い、学内でAEDの取扱いや緊急時の救護法についてレクチャーする職員の認定制度を取り入れている。本校は江戸川区と災害時の協力提携を締結しており地域の防災訓練にも参加をしている。		
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校に対し教育活動等の情報提供を行なっているか。	3	対高校の窓口として広報センターを中心に、高校で進路ガイダンスを実施、情報提供している。学校説明会ではなく、入学者の高校を訪問し、学生の状況を報告するとともに入試や学校の取り組みの情報提供活動を行っている。	在校生の成績報告や卒業生の就職・資格取得実績を訪問して報告している。実習で母校の部活動サポートをするケースもあり、教育内容を理解していただく機会もある。	3	・中高・出身校でのスクールトレーナーの実績を作り、入学してくる学生のモチベーションを上げ、合格率・就職率アップにつなげていただきたい。 ・コロナに関わらず定員をクリア出来ていることは、HPや広告に力を入れて、それが高校生と保護者へ伝わっていると思う。 ・2022年入学者は入学目標+10となっているが学科でバラつきはあるのか。
	7-26-1 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行い、選考に関する実績の把握ができていますか。	3	入学選考に関しては、基準を募集要項に明示し、決められた日程に実施している。 選考終了後は、「選考会議」で可否を確定する。面接結果、書類内容、選考試験などの結果を踏まえ、将来スポーツ業界で働くことに適性があるかを総合的に判断している。	将来の希望分野への適性を適切に見極めるため、面接試験の比重を多くしている。面接(面談)の際には、本校の教育内容と本人の希望する職種にミスマッチが起きないように説明も含めて実施をしている。選考は学力のみにとられず、モチベーションが高く目的意識がしっかりしている学生の確保をしている。		
	7-27-1.2 学納金は妥当なものとなっており、入学辞退者に対し適正な取扱いを行なっているか。	3	学納金は、その学科の教育目標達成（卒業時の到達目標）を目指した学校運営に必要な金額であり、人件費（講師・教職員）、実習費、施設管理・運営費等に当てられている。納入書発送の際に、徴収する金額の詳細を明示している。また募集要項にも前年度実績を明記している。	入学辞退者の取扱いは慎重に行っており、入学事務局が学費の取扱いを説明をしたうえで辞退処理をしている。基本的には入試制度にとらわれず入学金以外は返金を行っている。		
8 財務	8-28-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	毎年事業計画書を作成し、5か年の収支予算を立てている。その中で入学者数、在校生数、退学者等を勘案して学費明細を作成し、収入予算の推移を把握している。また新学科構想、設備について計画し、支出予算を作成している。借入金等長期資金の計画については、都道府県の基準の範囲内で計画・実行している。これらは理事会・評議員会にて承認、報告がなされている。	体制を整えるべく、学校法人滋慶学園は公認会計士による監査と監事による監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議員会においてその報告をしている。学園内に常任監査室を置き、内部監査も施している。	3	・学科を増やし、4年制も導入し新しい試みとして進化している点は評価に値します。 ・4年制が今後、どういう変化をおこしていくか楽しみ。
	8-30-1.2 財務について会計監査が適正に行われているか	3	私立学校法に基づく財務情報公開体制が整備されている。 外部関係では寄附行為の変更認可及び行政への届出、そして内部関係では財務情報公開規程及び情報公開マニュアルを作成し、財務情報公開体制を整備した。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、秩序整然たる順序に基づいて情報公開に対処している点が特徴として挙げることができる。定期的に会計士が学校会計の確認を行っている。		

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
9 法令等の遵守	9-32-2 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	学園全体で、各業務に関するコンプライアンス研修を毎月行い、年間フローに落とし込んで漏れないように進めている。 法令、規則、規定に関してはグループ校コンプライアンス担当者で情報の共有を徹底している。学内では事務局長、学生サービスセンター長が相談窓口となり、学校運営および教職員に対し適正な対応を行っている。	コンプライアンスについては、学園全体で力を入れて取組んでいる。本校では、学校長、事務局長、コンプライアンス担当者（学生サービスセンター長）が中心に整備を行っている。 法令遵守は最優先事項と捉えており、年々研修のボリュームも増えている。法令に縛られ動きが消極的にならないよう制度を理解する事が重要である。	3	・グループ全体でコンプライアンス情報を共有し、ルールの中で運営がなされていることが職員を守り、学生も守られることになる。とてもグループの強さを感じる。 ・新学科の構想を知りたい。
	9-33-1 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3	教職員に対しては、就業規則等にも個人情報保護を明記すると共に、定期的な教育・研修を実施し受講者に試験を行い合格者には終了証を交付して周知徹底を図り、併せて各人より「個人情報保護誓約書」を提出させている。個人情報を取り扱う業務の外部委託先については、「選定チェック表」により審査をし、業務委託時には「業務委託契約書」に保護を明記させ「個人情報保護誓約書」を提示させている。マイナンバーの導入等、制度の変化により全職員向けに研修を実施しており、毎年更新の研修も予定されている。また、実習へ参加する学生向けに、実習先での個人情報保護の遵守及びITリテラシーに関する勉強会を実施。	外部機構の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年ライセンスを更新している。 個人情報特定の為の洗い出しを行い、教職員に何が個人情報に該当するのか認識をさせると共に、保管方法・保管期限を考える機会を設けている。毎年、ITリテラシーの確認試験を教職員、講師、学生が受験をしており、SNSを含めたトラブル防止に努めている。		
	9-34-1.2 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努め、その結果を公表しているか。	3	自己点検、自己評価委員会を発足させて、毎年5月中に、完成させており、ホームページにて、公開している。	自己点検・自己評価を実施する中で見えてきた改善項目は学校責任者を中心に関係部署リーダーにて対策を検討している。評価結果は学校関係者保護委員会にて更に評価を得た後に、HP上に公開をしている。		
	9-34-3.4 学校関係者評価の実施体制を整備し、評価結果を公表しているか。	3	学校関係者評価委員会を実施し、自己点検・自己評価の報告をし、更に評価を行っている。評価結果についてはHPにて情報公開を行っている。	情報公開を義務付けられており、評価結果も公開項目となっている。情報公開のメニューはトップページの学校名の並びに表示している。		
10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	東京都、江戸川区の教育機関や江戸川区体育会、また各企業、団体との連携を行っている。 CLUB-TSRという形で、地域スポーツクラブを行っている。 地域への開放は行っている。災害時における協力関係に関する協定を江戸川区と結んでいる。	カリキュラム作成時やCLUB-TSRを運営する際に地域への貢献を視野にいれて考える習慣をつけるよう会議等で職員に啓蒙していく。	3	・クラブTSRなどの地域貢献で学生の士気も高め将来の目標が明確になるのではないかと。また、小児病棟や老人ホームなどの慰問し、自分たちの生き方を改めて考える機会も必要だと思ふ。国際交流は海外を目標にしている学生が行い、先ずは国内で活躍できるマインドを育ててほしい。 ・コロナの中、オンラインでの研修ができたことは学びの機会としても良かったと思う。 ・クラブTSRやスポーツイベントなど積極的にこれからも続けてほしいと思う。
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	2	ドイツ・ブンデスリーガ1部のアイントラハト・フランクフルトと学生の教育に関する提携契約を締結している。教育課程として設置している「国際教育」は、国内研修として実施し、国際的に活躍している人材からの講義や現地の様子をオンラインで学ぶなど、できる限りの国際教育を実施した、	ドイツ、フロリダの海外研修はコロナ禍により実施ができなかったが、代替教育としてオンラインでの研修を行った。今年度はオリンピック開催年であった為、帯同した職員からの報告会等も開催されスポーツをグローバルな視点で学ぶことができた。		
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し活動支援を行なっているか。	3	ボランティアとして各種スポーツイベントに参加をしており、それを実習と同様に学生からの報告を必須として、評価、記録を残している。スポーツトレーナー科およびスポーツビジネス科の学生にはボランティア要請の声がかかることが多い。	大会ボランティア活動に関しては、教員も参加し学生の状況を確認しながら評価を行っている。学校へのボランティア依頼があった際には、事故やケガの対応を含めて参加要項を確認して募集を行っている。オリンピックはもちろんのこと、毎年サッカーの天皇杯はボランティア要請があり学生が多くのか場活躍している。		